

表1 研究主題の解決策と達成度

小委員会	達成目標	下位目標	解決策 (前提) 1. 望ましい人間関係、望ましい態度 2. 「ならぬことはならぬ」指導 3. 見逃すことなく、辛抱強く、くり返し、くり返し指導する。	下位目標の達成度	
				達成度の測定用具	達成度
時間	ア 時間を守る生徒 イ 時間を有効に使うことのできる生徒	ア 朝、遅刻をしない生徒	ア 登校時の遅刻防止の解決策 每学期4週間継続の定期校門指導を実施する。 また、実状に応じてその都度校門指導を実施する。	(1) 教師の観察 (2) 遅刻調べ (6) 設問9、10	70%
		イ 授業の始まりには、きちんと準備のできている生徒	イ 始業、終業の時刻をきちんと守るようにする。	(1) 教師の観察 (3) 着席調べ (6) 設問11	80%
		ウ 清掃を協力しながら短時間で手ぎわよくできる生徒	ウ 清掃の監督には必ず行って、短時間のうちに、能率よく、きれいに行うよう指導する。	(1) 教師の観察	80%
		エ 家庭での学習をもっとやる生徒	エ 家庭学習に対しては、国語、数学、英語の三教科を中心に、それぞれ週2回程度宿題を出す。	(1) 教師の観察 (6) 設問5,6,7,8	50%
服装	ア 清潔な服装、髪型の生徒 イ 身のまわりの整理整頓ができる生徒	ア 服装規程に合った清潔な服装、髪型の生徒	ア 男女の本校指定制服をケースに入れて展示しておく。 イ 服装・頭髪の規程(イラスト入り)を印刷して全職員、父兄、生徒に配付し、徹底をはかる。 ウ 服装検査の事前に生徒に「自己診断カード」を渡し自己診断させる。 エ 週2回、週番が全校の清掃状況を点検する。	(1) 教師の観察 (4) 服装・頭髪検査の記録 (6) 設問14、15、16、17	60%
		イ 紙ぐずや牛乳等の空きパック等の始末ができる生徒		(1) 教師の観察 (6) 設問18	80%
礼儀	ア TPOに応じた対応のできる生徒 Time..... 時 Place..... 場所 Occasion..... 立場 (状況) イ 適切な言葉、適切な態度で話せる生徒	ア きちんとした挨拶や礼のできる生徒	ア 授業や部活動、清掃等の始まり終わりに挨拶と礼の指導を行う。 イ LHRの年間指導計画の中に (1) 挨拶と礼の仕方 (2) 言葉づかいと話し方 (3) 場に応じた適切な態度等のテーマを設定し、実習させる。 ・各テーマに関するビデオ、映画を視聴させ実習させる。 ・三分間スピーチの設定	(1) 教師の観察 (5) 挨拶調べ (6) 設問12、13	70%
		イ 適切な言葉、適切な態度で話せる生徒		(1) 教師の観察	60%

「なるほどそうだったのか」と、学校で受けたいろいろな指導の意味がわかり、その時点から「する人間」に変わることを信じて全校挙げて粘り強く取り組んでいる。

**高校生活を充実させるためのホームルームの進め方**

**県立相馬高等学校**

一、本校の特色

本校は一学年が普通科四学級、理数科一学級の中規模校である。近年、社会の変化および地域の開発、また高校進学率の上昇とあいまって、本校にも従来には見られなかった変化が生じている。入学段階ですでに生徒の意識や資質、学力などは実に多種多様である。本校はこのような現状をふまえて、教育課程の編成に検討を加え、選択制や習熟度別学習の導入、生徒指導の徹底など教育活動の充実、発展に努めてきた。

二、研究主題の設定

目的意識の明確でない生徒や日常生活態度が安易な生徒が漸増している現状に対し、どのようにすれば生徒に自主性を育て、積極的、意欲的に学習

やその他の活動に取り組ませることができ、多くの生徒に充実した学校生活を送らせることができるか、を追究することにした。そこで高校生活の基盤であるホームルームに焦点をあて、研究主題を「高校生活を充実させるためのホームルームの進め方」と設定した。

三、基本方針

- (一) 職員、生徒が全校をあげて研究実践に取り組む。
- (二) あらゆる教育活動との関連を図り、本校の実情や特質を考慮し、各部・各学年・各教科等との連携を密にし、ながら、全職員の共通理解のもとに研究をすすめる。
- (三) 生徒の意識や実態を正確に把握するために全校生を対象に調査を実施し、調査結果の分析を基に対策を検討する。

四、研究内容

研究主題を追究するために三つの研究大項目を設定し、相互に連携し合いながら、精選した二十の実践項目を実践することにした。実践の推進にあたり各研究班の代表から成る研究推進委員会を設置した。

(一) 研究大項目

- ・ 第一研究班 「ショートホームルーム・ロングホームルームの進め方」